8月15日（土曜日）「洗礼者ヨハネ（4）証しII」

【新改訳 2017】

ヨハネ　1•29

「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』」

　バプテスマのヨハネがイエスについて語った重大な証しのことばです。バプテスマのヨハネは、ナザレのイエスはどういうお方なのか、その最も重大な宣言を、このことばによって世に明らかにしてくれました。

　「見よ」は強く注目を引く語りかけです。「世の罪を取り除く神の小羊」ということばは、旧約聖書との関係で正しく理解されます。イスラエルがかつてエジプトから脱出した時、主の御怒りが過ぎ越すようにと家のかもいに小羊の血を塗ったこと（出エジプト 12•3-7 参照）と、イザヤ 53 章に苦難のしもべとして語られるメシヤ預言が内容的に 1 つとなって成就していることの証言でした。イエスは私たちの罪のために十字架につく「神の小羊」（いけにえ）として予言通りに来られたのです。なんともったいないことでしょう。ただ感謝のほかありません。

～祈り～

主よ。神の御子でいらっしゃるあなたご自身が、人間の罪の贖いのために、いけにえとなるべくお降りになったことを、御名をあがめ、心から感謝します。

【学びのために】

出エジプト12•3－7、イザヤ 53 章、そのほか、この後に出てくるキリストのご生涯から、この厳粛な事実をしっかりと受け止めることが大切です。